インバウンド再開へ、首都圏で準備着々 様子見の業者も

#地域総合 #インバウンド #新型コロナ

2022/6/9 2:00 [有料会員限定]

東京・銀座の「MUJI HOTEL GINZA」は、浴衣のレンタルが付く宿泊プランの販売を6月から開始した

新型コロナウイルス対策で止まっていた外国人観光客の入国が10日、再開される。首都圏の観光地では低迷する業績の回復につなげようと、外国人を受け入れる準備が着々と進む。もっとも、団体旅行客に限定するなどの条件があり、インバウンド（訪日外国人）需要がどれほど回復するかは不透明。外国人対応が手探り状態の事業者も目立つ。

コロナ前は観光を楽しむ外国人の姿が多く見られた東京・銀座の「MUJI HOTEL GINZA」。海外からの旅行客に日本文化を味わってもらおうと、6月から浴衣のレンタル付き宿泊プランの販売を始めた。

近くの着物店で着付けした後、銀座の街を和装で散策してもらう。ホテルの従業員はお薦めの和菓子店を紹介するなどして回遊を促す。同ホテルの岡久雅昭支配人は「街の歴史や最新トレンドを感じられる銀座を、また世界の人に楽しんでほしい」と期待する。

横浜観光コンベンション・ビューローはウェブサイト「バーチャル横浜」で横浜市内の観光情報を日英2カ国語で発信している

海外への情報発信に力を入れるのは、横浜市の外郭団体「横浜観光コンベンション・ビューロー」だ。2022年4月にウェブサイト「バーチャル横浜」を日英2カ国語で開設した。

横浜中華街や山下公園、みなとみらい21地区など市内の観光スポットを360度カメラで撮影した写真や映像で紹介。テーマやエリア別の様々なモデルコースを提案し、市内のホテルなどを掲載している。

この団体は米ロサンゼルス市と中国・上海に拠点があり、20年度から海外の旅行会社に団体ツアーの企画を促してきた。コロナ禍でも継続的に取り組んでおり、担当者は「インバウンドがいつ再開してもいいように準備してきた」と本格的な需要回復を心待ちにする。

川越の旧市街で観光ガイドの英語による説明を聞く星野高校の生徒（7日、埼玉県川越市）

蔵づくりの街並みが有名な埼玉県川越市では外国人向けに英語での観光案内の準備が進む。7日、川越のシンボルである「時の鐘」の周辺で、英語が話せる「小江戸川越観光ガイド」の2人が、星野高校（川越市）国際文化部の部員35人を相手に外国人向け観光案内の研修を実施した。

高校生らは、川越の文化や歴史をガイド2人がどのように説明するのか熱心に耳を傾けていた。秋ごろには街中でガイドを実践する予定で、副部長を務める3年生の佐藤凛凪（りな）さんは「川越で外国人の観光客と話したいと思い入部したが、コロナ禍で2年間かなわなかった。ようやく実現できそうなのでとてもうれしい」と笑顔を見せた。

外国人向けのサービス提供を再開する動きが広がる一方で、踏み出せず様子見にとどまる事業者が多いのも実情だ。コロナ対策のため、1日あたりの入国者数の上限が2万人で、観光目的での入国は添乗員付きのパッケージツアーに限定されるなど、まだまだ制約があることが背景にある。

季節に応じて色とりどりの花が彩り、コロナ前はアジア人を中心に人気があった千葉県袖ケ浦市の東京ドイツ村。外国人向けには特段の準備をしておらず、少しずつ戻る日本人客に向けた周知に力を入れている。

担当者は「人数制限が依然としてあるからか、10日以降について海外からの問い合わせなどはほとんどない。実際に訪日客が増えてきたら、外国語パンフレットを置くなど従来のような多言語対応を復活させたい」と話す。

はとバス（東京・大田）も、運休している外国語ツアーを再開させるめどは立っていない。政府は今後もインバウンドの拡大に向け段階的に水際対策を緩和する方針で、広報担当者は「状況を見つつ判断する」としている。コロナ対策を講じつつ、着実に観光客の受け入れを増やしていけるかが問われる。